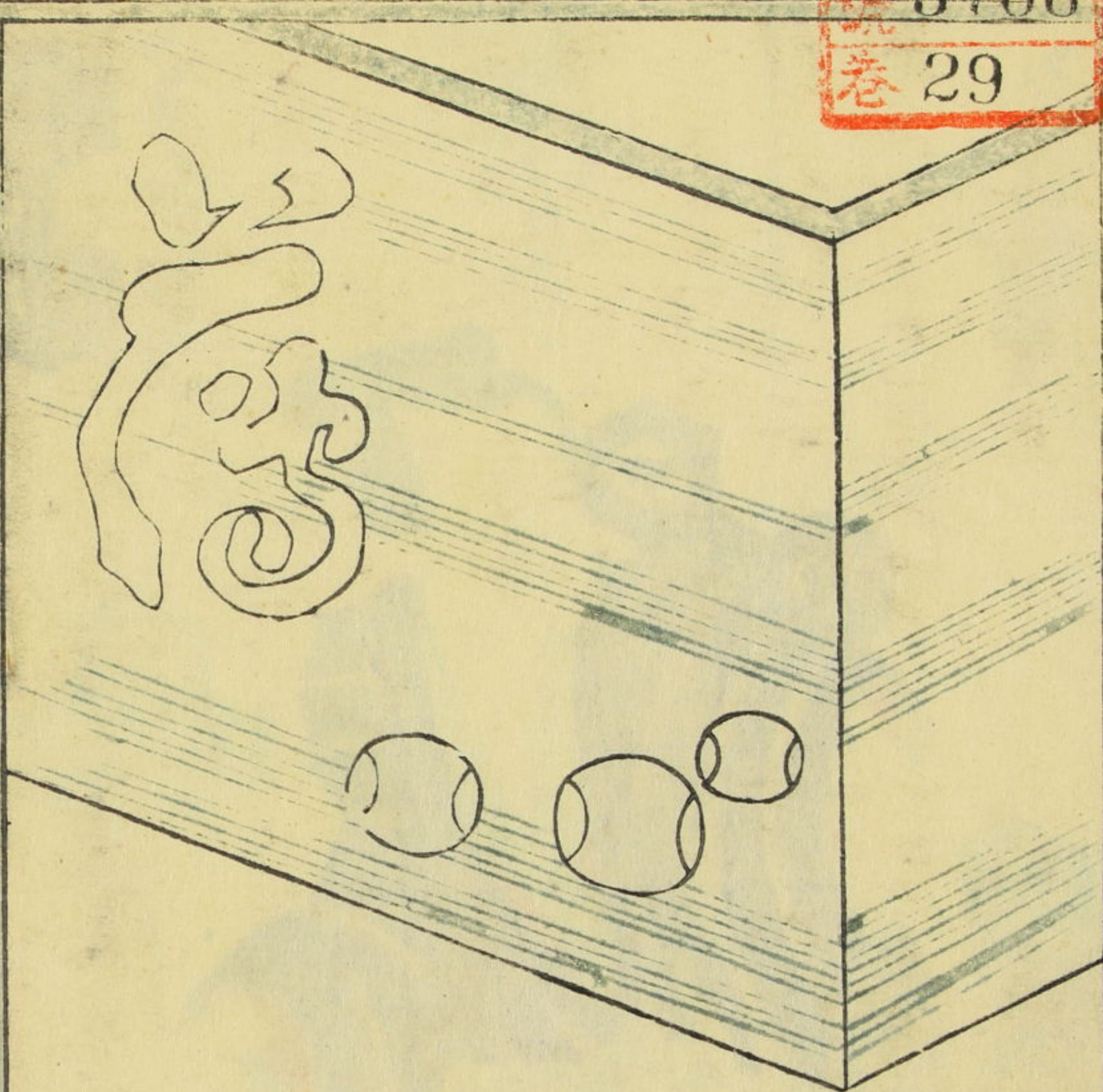


~ 13
3706
29



門へ13
3706
巻 29



まはるに
日記十五
集と
君の
くま
あつ
あつ
あつ
あつ

福

一

戯作の趣向の何れ積りても、筆致も、刻も、中々、あつた。山陽道を、五月、九、初下り。當初の作、九、一、足、
六、八、四、八、四、
肯官の倦りや、素人と、あつた。語引く、
残りの人、華の序、
三五の十五編、
筆子の、
發行、

乙丑新春

爲永春水記



冠利片刀齋

冠利片刀齋



冠利の
渾家裾袂

太「懐」自「振」面



○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

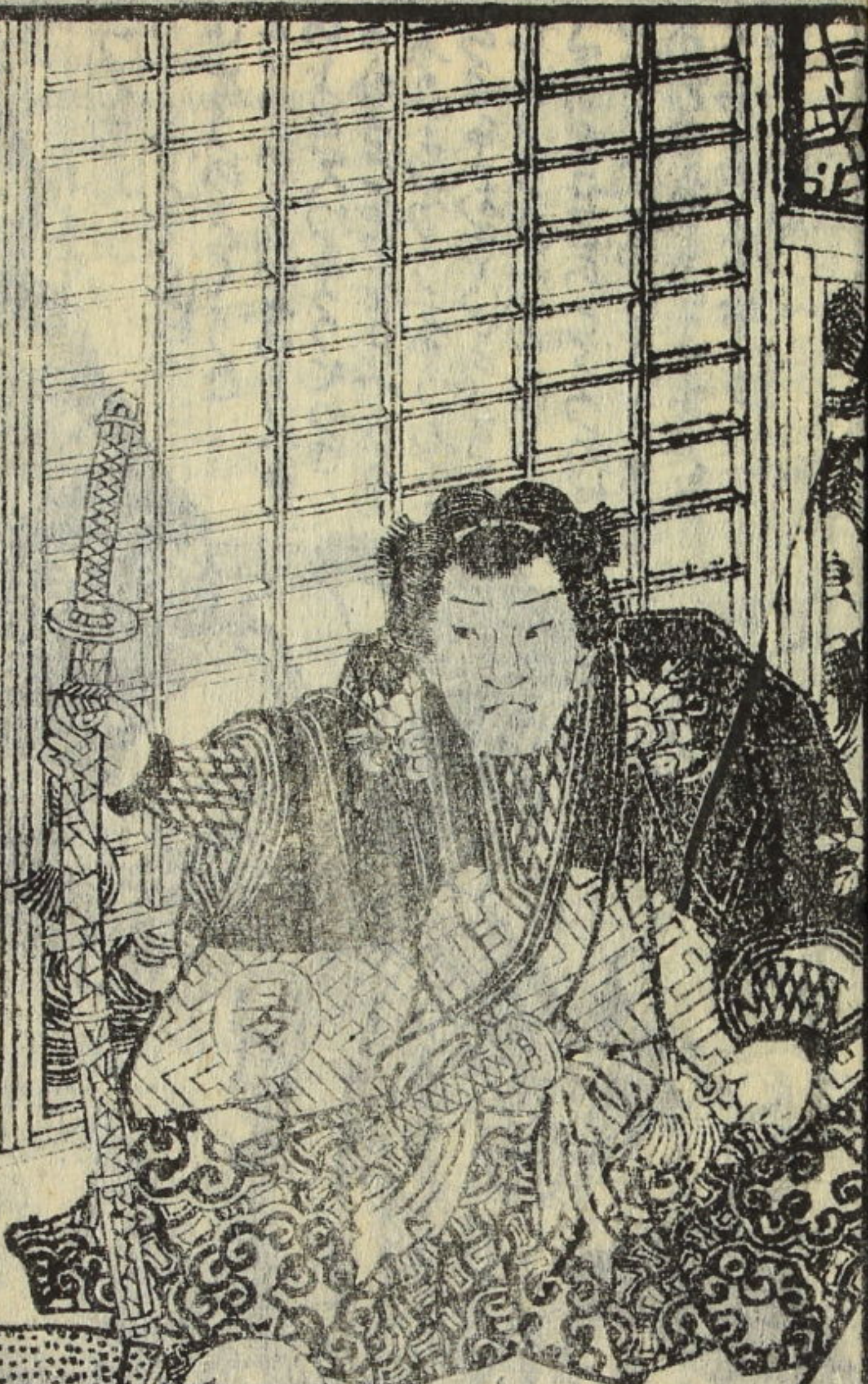
○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

○此の巻は、
新編御成吉思汗
の事なり

Handwritten text in the top left corner of the left page, written vertically in a cursive style.

Handwritten text in the middle left of the left page, written vertically.

Handwritten text in the bottom left of the left page, written vertically.



Handwritten text in the middle right of the left page, written vertically.



Handwritten text in the bottom right of the left page, written vertically.

Vertical text on the right edge of the left page, possibly a page number or title.

Small vertical text at the bottom right of the left page.

Vertical text on the left edge of the left page.

Small vertical text at the bottom left of the left page.

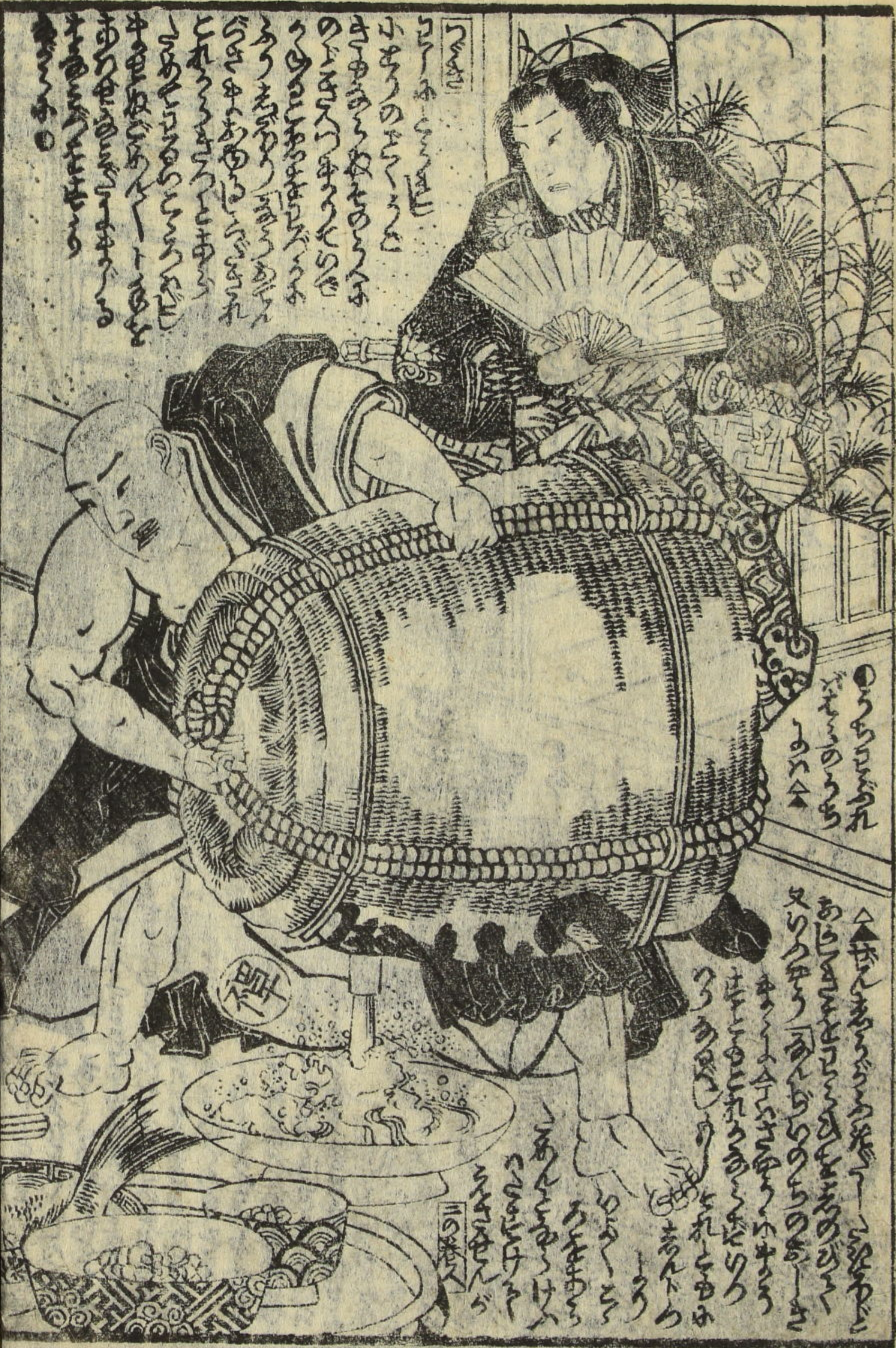


此の女は
 美しき
 容顏に
 花の如
 きを
 見れば
 心も
 花の如
 きに
 咲か
 らる
 べし

此の男は
 忠實な
 心持に
 女を
 慕は
 るべし

此の女は
 忠實な
 心持に
 男を
 慕は
 るべし

此の女は
 忠實な
 心持に
 男を
 慕は
 るべし



此の女は
 美しき
 容顏に
 花の如
 きを
 見れば
 心も
 花の如
 きに
 咲か
 らる
 べし

此の男は
 忠實な
 心持に
 女を
 慕は
 るべし

此の女は
 忠實な
 心持に
 男を
 慕は
 るべし

此の男は
 忠實な
 心持に
 女を
 慕は
 るべし



一ノ
二ノ
三ノ

四ノ
五ノ
六ノ

七ノ
八ノ
九ノ
十ノ

十一ノ
十二ノ
十三ノ
十四ノ

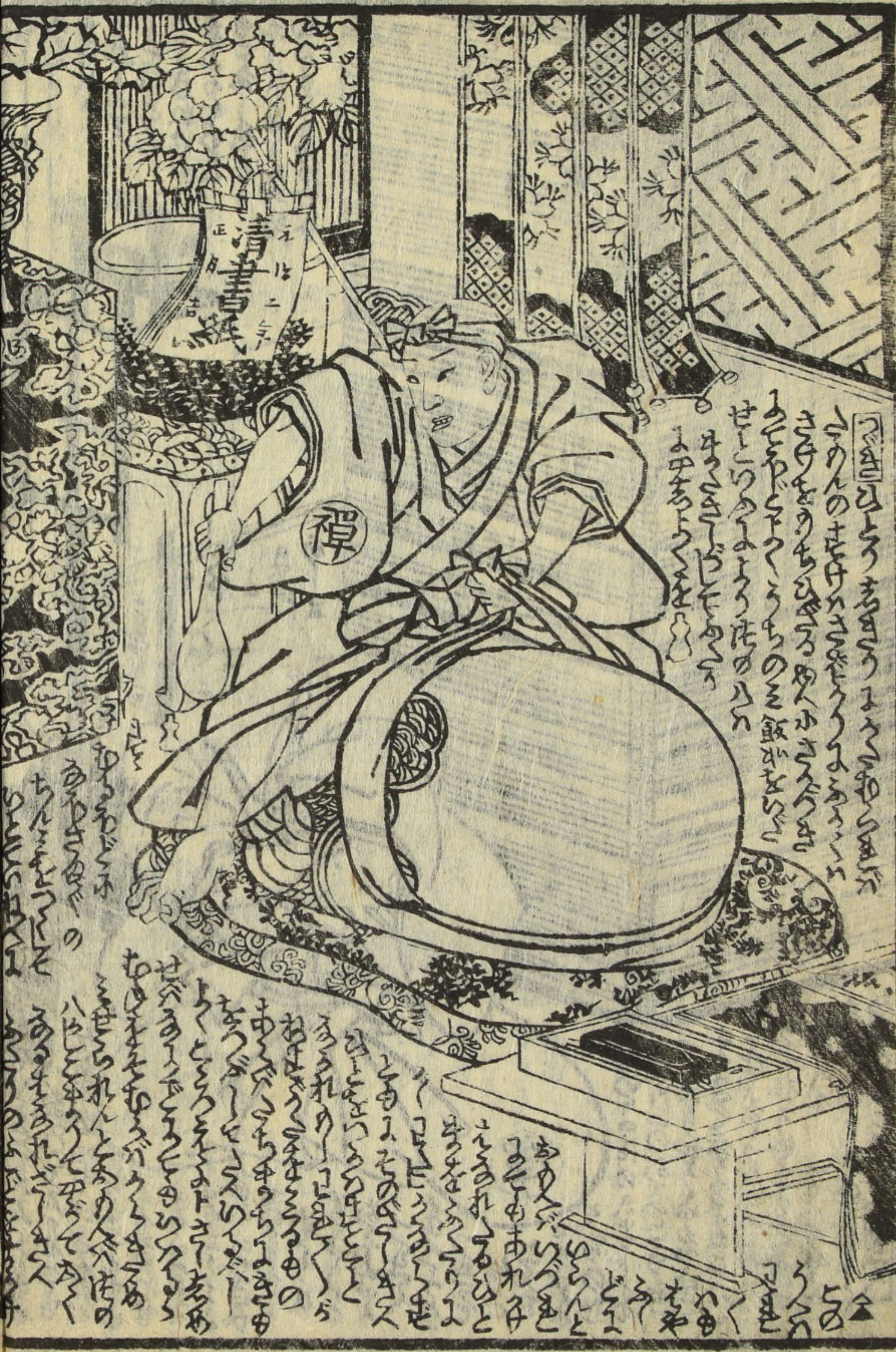
一ノ
二ノ
三ノ
四ノ
五ノ
六ノ
七ノ
八ノ
九ノ
十ノ
十一ノ
十二ノ
十三ノ
十四ノ
十五ノ
十六ノ
十七ノ
十八ノ
十九ノ
二十ノ
二十一ノ
二十二ノ
二十三ノ
二十四ノ
二十五ノ
二十六ノ
二十七ノ
二十八ノ
二十九ノ
三十ノ

一ノ
二ノ
三ノ
四ノ
五ノ
六ノ
七ノ
八ノ
九ノ
十ノ
十一ノ
十二ノ
十三ノ
十四ノ
十五ノ
十六ノ
十七ノ
十八ノ
十九ノ
二十ノ
二十一ノ
二十二ノ
二十三ノ
二十四ノ
二十五ノ
二十六ノ
二十七ノ
二十八ノ
二十九ノ
三十ノ

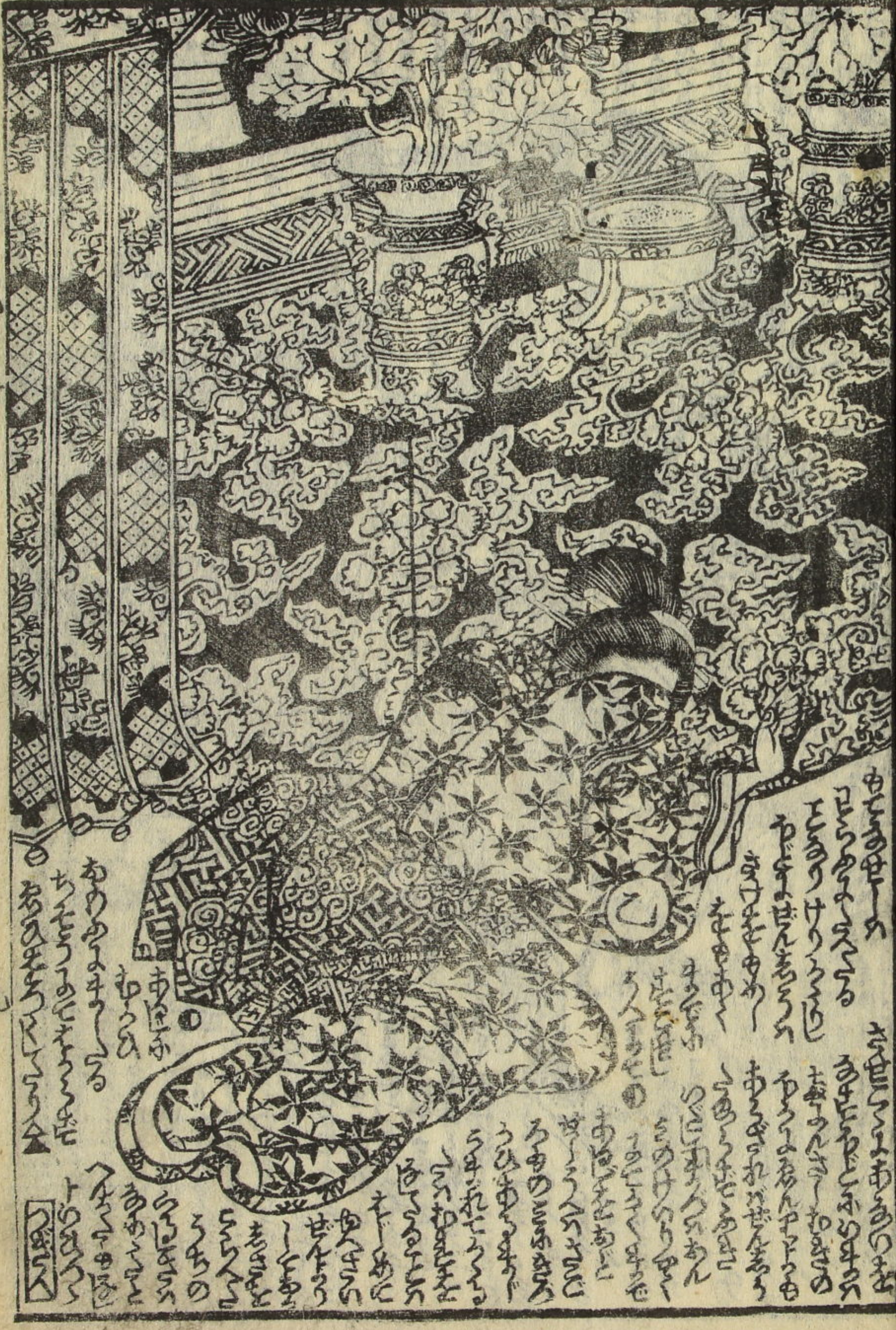


一ノ
二ノ
三ノ
四ノ
五ノ
六ノ
七ノ
八ノ
九ノ
十ノ
十一ノ
十二ノ
十三ノ
十四ノ
十五ノ
十六ノ
十七ノ
十八ノ
十九ノ
二十ノ
二十一ノ
二十二ノ
二十三ノ
二十四ノ
二十五ノ
二十六ノ
二十七ノ
二十八ノ
二十九ノ
三十ノ

禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也



禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也



禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也
禪師曰此是禪師之室也

春水作
 國貞画
 禪
 心
 空

此は春水の作にして國貞の画なり。禪師の坐す所を写し、心空の意を以て之を名づく。

水家
 實母散
 千葉堂孝輔製

柳蔭月朝妻
 四編ヨリ山々亭有人作
 九編迄梅朝樓國貞画

藪黃鸝八幡不知
 山々亭有人作
 錦朝樓芳席画

當春賣出一所の柳蔭月の朝妻殊の外御機嫌は協ひ製本手廻らざる迄は
 賣捌は段外問考辨有は日奉存り夫の御禮一當年は彼時讀門請國を廻歷する事な
 り。此の深き意は八幡の藪の奥を深しに探りて夫の遺跡を以て之を名づく。

之
花
抄
草
花
切
見
十
五
十
五
十
五

